

## I 学校経営方針

### 【小中一貫校八田小中学校の教育目標】

あす

**「ふるさとの未来を創造するたくましい児童生徒の育成」**  
**～知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成を目指して～**

小中一貫校八田小中学校の教育は、【八田 Children first】をコンセプトに、『1. 学習をつなぐ 2. 児童生徒をつなぐ 3. 教職員をつなぐ 4. 学校・家庭・地域をつなぐ』の4つの『つなぐプロジェクト』を柱とし、義務教育9年間で途切れのない連続した教育となるよう取り組みます。

〈めざす児童生徒像〉

- ふるさとを大切に思う児童生徒
- 変化の激しい、先行き不透明な社会に適応できる主体性のある児童生徒
- 自律（自主）性・豊かな人間性を持ち、たくましく生きていくための健康・体力を持った児童生徒

### 【学校教育目標】

「豊かな心を持ち かしこく たくましい子どもの育成」

### 【めざす子ども像】

- 【なかよく】 思いやりの心を持ち 礼儀正しく行動する子ども
- 【かしこく】 自ら学び 友と対話し 深く考える子ども
- 【たくましく】 よく食べ よく運動し 命を大切にする子ども

### 【めざす学校像】

- (1) よく学び、よく働く学校
- (2) 整然とした、美しい学校
- (3) 仲良く助け合い、和やかで楽しい学校
- (4) 安心・安全な学校
- (5) 地域に開かれ、地域から信頼される学校

### 【基本方針】 「生きる力をはぐくむ教育の実践」

- (1) すべての教育活動を子どもの育成に収斂させる。
- (2) 南アルプス市学校教育大綱・学校教育指導重点・新やまなしの教育振興プラン等各種法令に則った教育活動を行う。
- (3) 子どもを守り、育てるために地域や保護者と連携する。

### 【特色ある教育活動】

- (1) 小笠原流礼法・立腰教育 心と体のバランスのとれた子ども
- (2) ふるさと教育 文化財課との連携や地域の人材を活用し、ふるさと八田を愛し、ふるさと八田に誇りをもつ子ども
- (3) 川柳 言葉を大切にし、感性を豊かにする子ども
- (4) 緑のカーテン 自然や環境問題に関心をもつ子ども
- (5) 清流祭 音楽を通して心をつなにし、互いの絆を深めようとする子ども

### 【本年度の努力点】

- (1) 義務教育9年間を見通した教育課程をもとに、小中一貫教育を推進する。
- (2) 学びの質を高める授業づくりを推進し、学習意欲の向上と確かな学力の育成を図る。
- (3) 豊かな心を育成する道徳教育の充実を図る。
- (4) いじめを許さない集団づくりと不登校児童が生じない環境づくりに努める。
- (5) 命、体力、健康・安全、食育に関する指導の充実に努める。
- (6) 指導と支援にもとづく特別支援教育を推進し、その充実を図る。

### 全体評価

教職員の自己評価と児童のアンケート集計結果及び保護者アンケートを分析すると、本校の学校教育が概ね良好に実施されていると考察できる。

教職員の自己評価については、全22項目中、「教育課程・学習指導」及び「生徒指導」及び「特色ある開かれた学校」の全14項目については、A評価（そう思う）とB評価（だいたいそう思う）を合わせた肯定的評価がすべての項目が90%以上である。また、強い否定の回答（「そう思わない」）はなかったことから、これらの項目については、意識を持ち教育活動にいそしんでいるといえる。一方「学校経営」については、次の3つの項目で90%を下回った。その1つめは、「小中一貫校の教育目標を意識した教育活動を行っている」の項目である。今年度から八田小中学校として小中一貫教育をスタートさせている。グランドデザインを作成し、教科の系統性がわかる教育課程を小中で共有するなどして初年度を迎えた。職員には、一貫教育のめざすところやそのために何を重点的に推し進めていくのか折に触れ説明し周知してきたが、職員もまだ手探りの状態であると言える。それは、「11.八田小中スタンダード(含む、教科別年間指導計画)を活用していますか」や「12.八田小中スタンダード(学習プロセス・学習ツール)を意識した授業づくりを進めています」の項目において肯定的評価が90%を上回っているとは言え、A評価の割合よりもB評価の割合のそれの方が、わずかではあるが高いことからもうかがえる。「つなぐ」をより意識し、小中一貫した取り組みを、意図して行っていくなどの意識の改善に努めていきたい。2つめは、「防災・防犯にかかわって」の項目である。その中でも、特に防犯にかかわっては、子供を守る会の皆様や地域の方々に日ごろから見守っていただいていることに感謝しつつも、頼り切ってしまう感がある。「防犯教育」という観点から、学校や学級においても不審者対応等について学ぶ機会を設け、日頃からの指導を充実させるなどの改善を行っていきたい。3つ目は、「小中一貫校として、児童生徒や職員の交流を積極的に行っている」の項目についてである。年度の早い時期に、小中の職員同士の顔合わせをしたり、職員の親睦を含めた交流や、研究会の交流などをさらに充実したものになるよう押し進めていきたい。

保護者アンケートについては、全14項目の中で、肯定的な回答が90%を超える項目は、7項目、80%を超えるものが6項目、80%に届かない項目が1項目であった。90%を超える評価の中でも特に「学校が楽しいところ」や「仲の良い友達を知っている」の評価が高かった。子どもたちは楽しく学校に行っていると多くの保護者はとらえている。今後も、子どもたちが楽しく通える学校を目指し取り組んでいきたい。また、「3. 授業内容がわかっていると思うか」の項目に対しては、肯定的な回答が90%を占めた。これは、昨年度の同時期の結果と比べても飛躍的に伸びており、授業づくりや授業改善に職員が熱心に取り組んできた成果が、児童を通して保護者にも伝わっているのだとしたら喜ばしいことである。他の項目についても全般的にはおおむね良好な結果であると言える。一方、課題としては、「宿題のほかにも家庭学習をしているか」の項目については、65%と低くなっている。昨年度と比べても大きな変化はなく、同じような状況が続いている。宿題(課題)は忘れずにできているだけに、“家庭学習パワーアップ週間”などを有効に活用し、保護者の理解と協力を仰ぎながら自主学習に一層力を入れて取り組んでいきたい。小中一環教育については、肯定的回答が80%に届いたものの、そのうちA評価は21%と低い。さらにはC評価・D評価を合わせた否定的回答も20%となっている。「これまでと何が違うのかがわからない。一貫校になったことによるメリットや変化(記録や伸びた部分)を教えてほしい」といった意見もあり、今後丁寧な説明をしたり発信をしたりすることが必要である。

記述欄では、日頃の指導に対する感謝や労いの言葉を多くいただいた。何点かの課題や指摘もいただいているので保護者の期待に応えられるよう今後も一つ一つ改善に向けて取り組んでいきたい。

児童のアンケートでは、全20項目中、肯定的な回答が90%を超える項目は、11項目。80%を超えるものが、3項目。80%に届かなかった項目が6項目であった。90%を超えるものには、

「学校が楽しい」「授業がわかる」「話をしっかり聞いている」「時間や決まりを守っている」「掃除をしっかりとっている」などがあり、ルールを守りながら、楽しく学習している姿がわかる。一方課題としては、「授業中に質問や意見を言う」「よい姿勢で学習している」がある。これらの課題を意識させながら、より一層工夫した授業を目指していきたい。また、「宿題のほかの自主的な家庭学習や家庭読書をしているか」の項目が低く、自主学習のやり方を教えるなどして、意欲付けを行っていきたい。また、読書の良さを伝え、家庭読書を増やせるよう取り組んでいきたい。「家の人に学校の様子を話していますか」の項目が低いことについては、家庭生活の中で、話す機会を意識して作っていくことが大切であることを子供たちに加え、保護者にも伝えていきたい。

前期は、約3ヶ月半の教育活動についての評価であるため、何らかの手ごたえを得たり趣旨や内容を理解したりするには難しい面もあるが、結果は真摯に受け止め2学期以降の学校経営に生かしていきたい。特に否定的な回答や評価が低かった項目については具体的な改善策を立て、“チーム八田”で実践にあたっていきたい。